

◆生産スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
親ウニ飼育	■	■	■									■
餌料培養												
アワビモ キート		■	■	■	■							
受精		■	■									
幼生飼育			■	■	■							
沈着				■	■							
種苗飼育					■	■	■	■	■	■	■	■
選別・出荷											■	■



画像：「北海道の漁業図鑑」（北海道水産業改良普及職員協議会）

◆施設概要

名称 浜中町ウニ種苗生産センター
 所在地 浜中町火散布（第2種散布漁港内）
 敷地面積 3,617.04㎡
 建築面積 1,036.35㎡
 建築構造 鉄骨造 平屋建
 生産能力 エソバフンウニ5mm種苗 300万粒
 施設竣工 令和3年3月1日
 供用開始 令和3年3月22日
 設計 株式会社中山設計事務所
 施工業者
 建築主体…赤石建設株式会社
 電気設備…高部・矢原・中原経常建設共同企業体
 機械設備…三建設備工業株式会社（釧路営業所）

◆お問い合わせ

浜中町ウニ種苗生産センター
 浜中町火散布（第2種散布漁港内）
 ☎0153-67-3667
 浜中町役場 水産課
 浜中町湯沸445番地
 ☎0153-62-2197

◆事業概要

建築主体工事費	367,334,000円
電気設備工事費	73,810,000円
機械設備工事費	236,940,000円
建築費計	678,084,000円
地質調査費	3,132,000円
測量・実施設計費	18,865,000円
工事監理費	7,370,000円
機械器具購入費	88,407,000円
総事業費合計	795,858,000円

◆財源内訳

道補助金	
水産業振興構造改善事業	
令和元年	8,287,931円
令和2年	341,313,298円
内水面漁業振興施設整備事業	
令和元年	897,000円
令和2年	33,450,000円
起債（過疎対策事業債）	203,500,000円
分担金	
浜中漁業協同組合	130,327,000円
散布漁業協同組合	74,267,000円
一般財源	3,815,771円
合計	795,858,000円

浜中町ウニ種苗生産センター



◆浜中町ウニ種苗生産センターについて

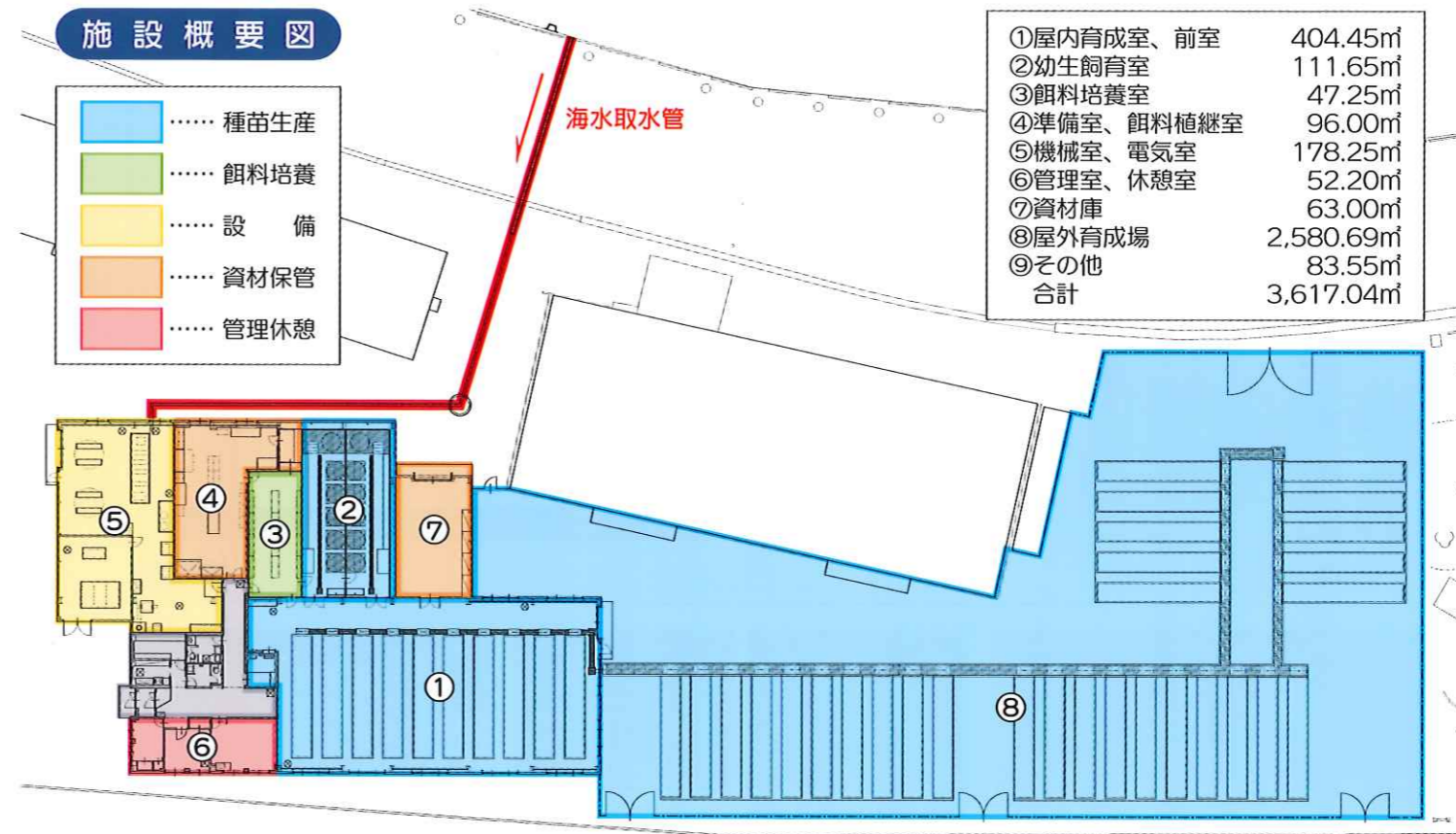
浜中町の漁業は、浜中湾や琵琶瀬湾など周辺海域約67kmに及ぶ海岸線、火散布沼や藻散布沼の湖沼、近海の温暖の海流が交錯する沿岸漁場により、豊富な水産資源に恵まれて発展してきました。

サケ・マスやサンマ等の不漁が続く、沿岸漁業が大変厳しい状況にある一方、恵まれた環境と長年にわたる技術力の蓄積で、栽培漁業であるウニ潜水漁業やウニ養殖漁業が、主要漁業へと成長を遂げ始めています。

しかしこれまでは、全国に先駆けた優れた技術を持ちながらも、使用している種苗の全てが町外で生産された種苗を購入していたため、浜中町産種苗が求められていました。

この度、『浜中町ウニ種苗生産センター』が完成したことで、種苗生産から水揚げまでの全工程を町内で行えるようになり、純度100%の浜中町産ウニの生産が可能となりました。

これにより、ウニ漁業の生産安定と、本町における栽培漁業、養殖漁業の更なる推進が期待されます。



◆幼生飼育室

受精後、22～30日間かけて飼育します。幼生の成長段階に合わせ、必要な細胞数に培養した餌料（キート）を給餌します。幼生飼育には精密な温度管理が必要なため、ヒーター及び空調により微調整が行われます。

《主な設備》		
●幼生飼育水槽	1000L	12槽
●ヒーター	200V	2組
●サーモスタット	0.1℃単位	2台

◆餌料培養室

希釈したキートの種を培養液に植継いで、給餌に必要な細胞数に到達するまで通気培養します。最大で5Lフラスコ100本以上を同時培養します。部屋は、空調設備によって、キートの培養に適した室温に調整されます。

《主な設備》	
●培養棚	1式
●培養用照明設備	58台



◆屋内育成室

幼生が変体期を迎えた頃を見極め、アワビモの繁殖した波板を収容した水槽にかけ流すことで沈着が始まります。また、加温機能を使用し、沈着スケジュールに合わせ、アワビモの培養や親ウニ飼育も行います。

《主な設備》		
●水槽	7.5t	10槽
●ヒーター	200V	20組
●サーモスタット		
●波板ホルダー	30枚収容	1,096個

◆準備室・餌料植継室

餌料培養に使用する培養液や栄養塩の生成及び滅菌作業を行います。特に、準備室にある万能投影機では、キートの細胞数の確認や幼生の育成状況などを確認する重要な作業を行います。

《主な設備》		
●万能投影機	10～100X	1台
●生物顕微鏡	20X/40X	1台
●オートクレーブ	45L	1台



◆屋外育成場

沈着した種苗を波板ごと各水槽に分散し、アオサや昆布を給餌して種苗が5mm以上に成長するよう、育成を行います。屋外にある水槽のうち、2槽は、昆布の一時保存やアワビモの種を過年保存するために使用されます。

《主な設備》		
●水槽	7.5t	30槽
●ネットフェンス	H=1.8m	146m

◆機械室及び電気室

3基のポンプを備え（うち2基を稼働）海水を安定供給し、1次ろ過、2次ろ過及び精密ろ過によりきれいな海水を各水槽に送水します。自家発電設備を備え、災害により停電が発生しても種苗が生存できるように備えています。

《主な設備》		
●ろ過器（1次/2次）	75μ/10μ	2/2基
●取水/送水ポンプ	各50m ³ /h	3/2基
●自家発電設備	80kVA	1基

